

海面サーモン養殖の課題

餌の課題

■生産コストの削減

(餌料の低魚粉化、給餌量抑制、増肉係数の改善、代替タンパク)



■餌の確保



疾病

■魚病対策

(ウイルス対策、細菌性疾病、ワクチン)



育種

■経営に貢献する育種

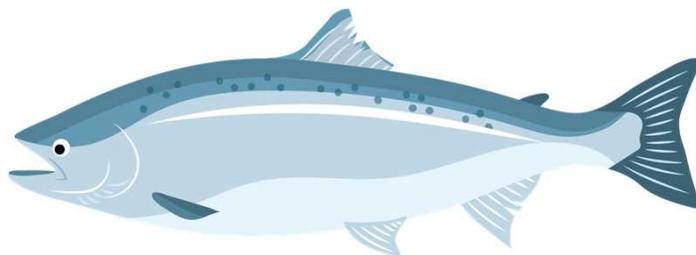
- ・高成長・耐病性・低魚粉耐性、高齢成熟魚低水温でも良く餌を食べる、耐塩性……etc
- ・不妊化、三倍体作成技術

(イメージ)

低魚粉で大きくなる親

病気に強い親

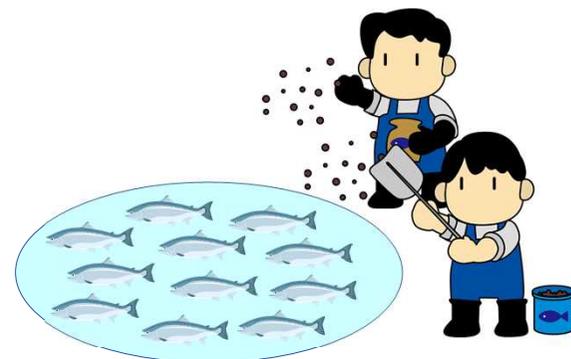
病気に強く、低魚粉で大きくなる魚



増産に向けた種苗の確保

■増産への課題

- ・海面養殖用種苗の確保
- ・生残率の向上
- ・内水面の種苗生産への負担
- ・排泄物の処理



飼育に関する課題

■夏を越せない

サーモン養殖は夏場の水温上昇で養殖期間が限定。生鮮品の周年出荷ができない。

■海面沖だし時のロス

海水の適応性や海水温が下がっていないときの沖出しによる種苗のロス。

■成熟の抑制

海面養殖時及び内水面飼育時の0+オスの発生抑制

■養殖漁場の確保

冬場の養殖に適した静穏域の確保の他、漁業権行使

■陸上養殖

設備の初期投資の低減

■労働力確保

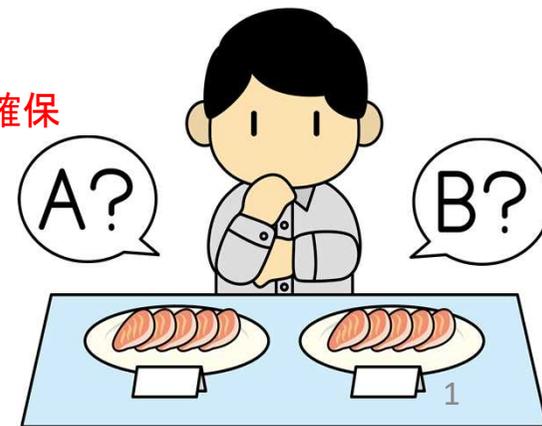


品質とマーケットによる課題

一部、刺身用フィレ加工と加熱用、定塩冷凍加工が主流。輸入品と差別化できない。マーケットへの訴求力。競合商品との違いが見つけにくい。

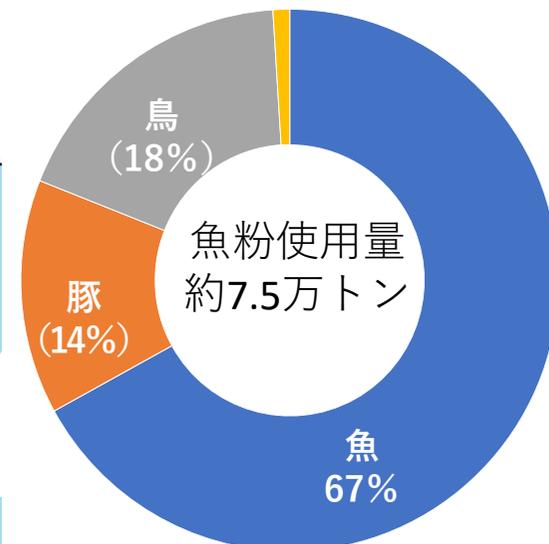
■マーケット(需要)

増産後の市場の確保

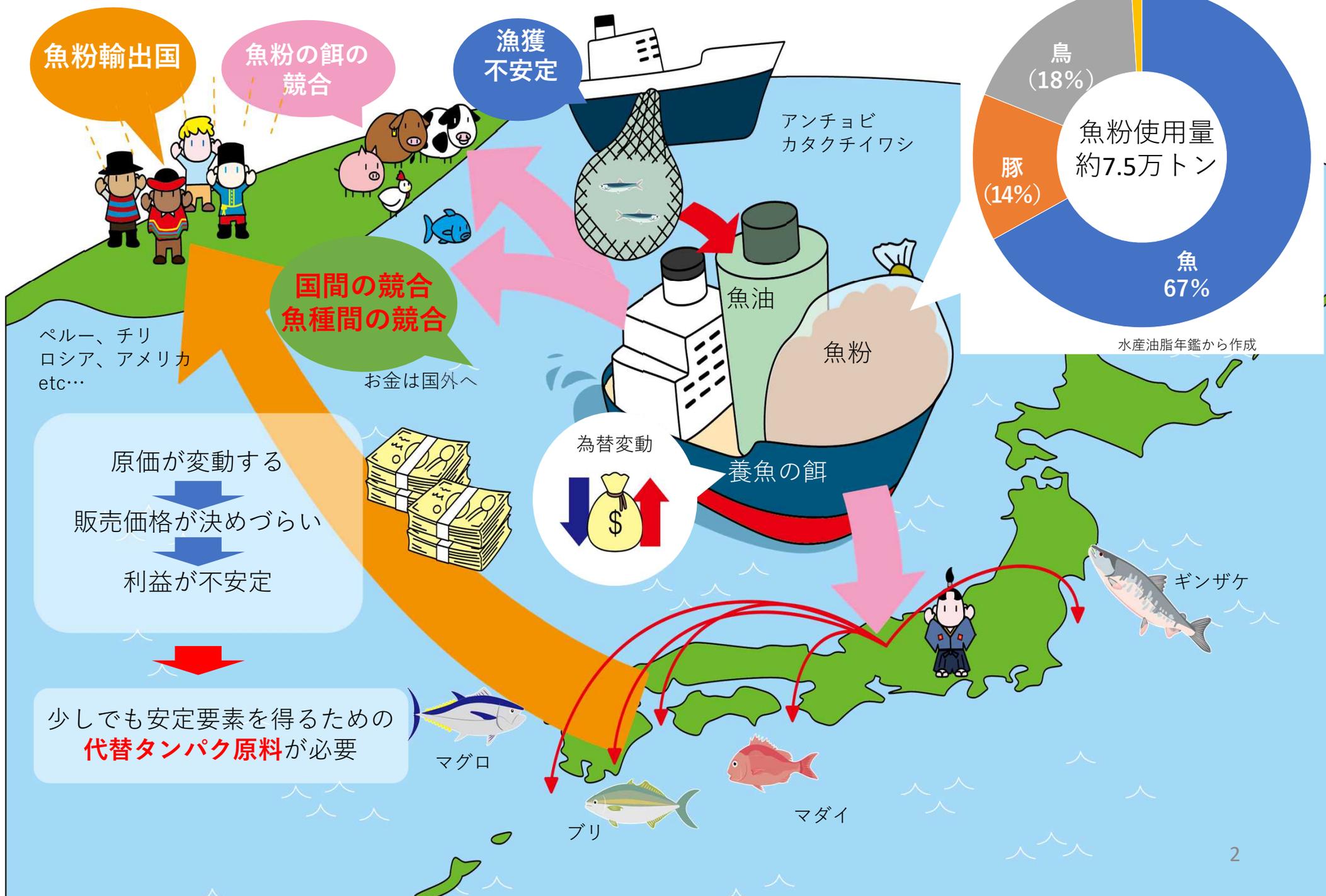


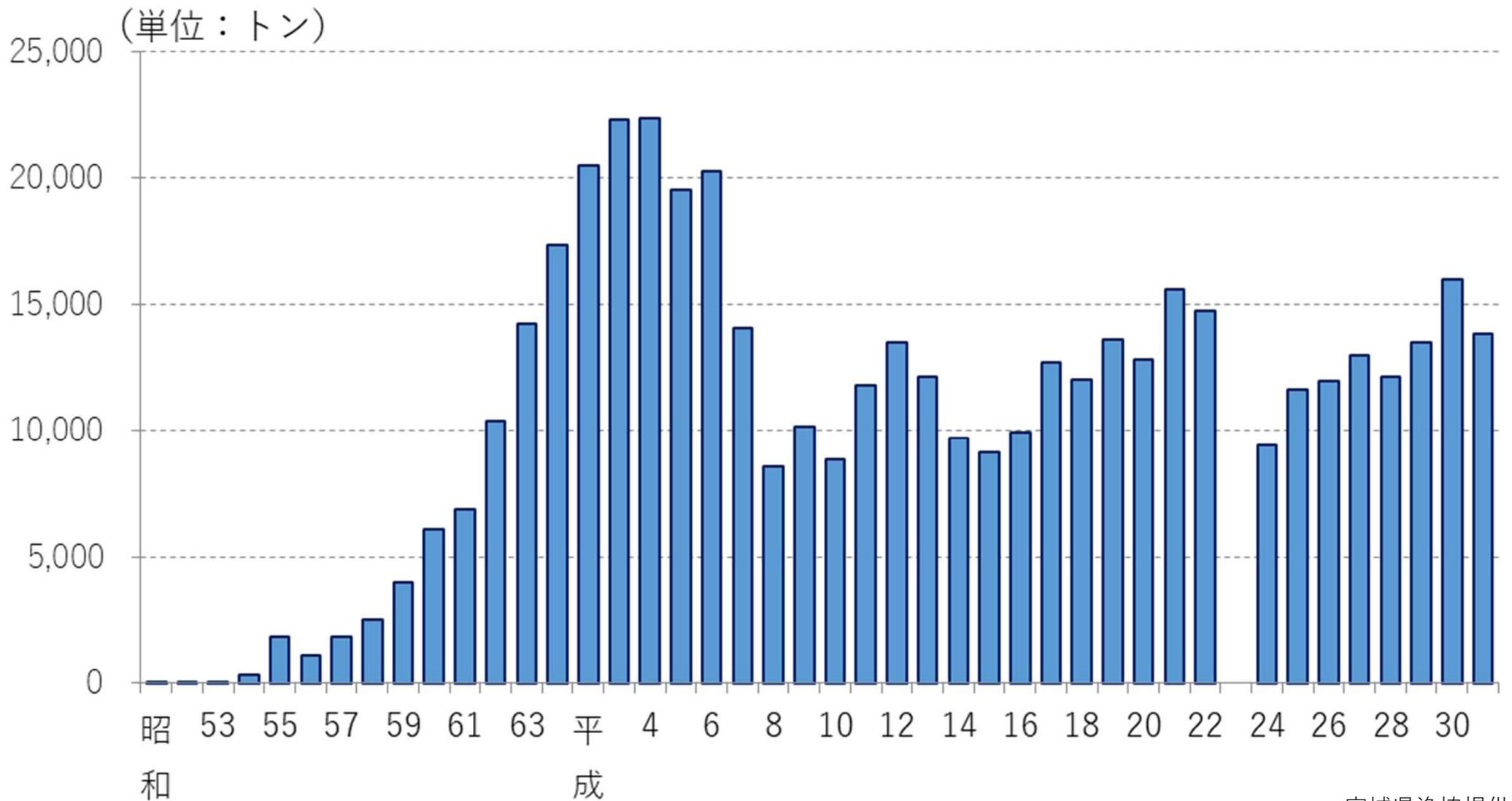
魚粉をめぐる課題

魚粉の使用先割合
(2019年)



水産油脂年鑑から作成





宮城県漁協提供

宮城県産ギンザケの年間水揚げ量の推移

- 過去には単県で2万トンを超える生産
- 2030年までにどうやって目標に近づけるか